



2024年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年3月11日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東
コード番号 2929 URL <https://www.pharmafoods.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祚
問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部部长 (氏名) 河中 敏弘 TEL 075-394-8600
四半期報告書提出予定日 2024年3月15日 配当支払開始予定日 2024年4月2日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年7月期第2四半期の連結業績（2023年8月1日～2024年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第2四半期	31,652	△9.9	1,535	—	1,542	—	768	—
2023年7月期第2四半期	35,143	21.9	△883	—	△912	—	△914	—

(注) 包括利益 2024年7月期第2四半期 783百万円 (—%) 2023年7月期第2四半期 △816百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第2四半期	26.68	—
2023年7月期第2四半期	△31.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年7月期第2四半期	37,020	9,202	24.9
2023年7月期	36,232	9,630	26.6

(参考) 自己資本 2024年7月期第2四半期 9,202百万円 2023年7月期 9,630百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期	—	10.00	—	12.00	22.00
2024年7月期	—	10.00	—	—	—
2024年7月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年7月期の連結業績予想（2023年8月1日～2024年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	64,100	△6.5	2,700	△25.2	2,900	△18.1	1,800	△41.6	64.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年7月期2Q	29,079,000株	2023年7月期	29,079,000株
② 期末自己株式数	2024年7月期2Q	1,006,767株	2023年7月期	233,994株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年7月期2Q	28,805,827株	2023年7月期2Q	28,908,838株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

第2四半期決算補足説明資料は、2024年3月21日に当社WEBサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「医食の研究で貢献」というミッションを掲げ、人々の持続可能な健康的で幸せな社会の実現を目指しております。

その実現に向け、食品、化粧品、医薬品の開発を科学的根拠に基づいて行い、独自の研究成果及び製品を「BtoB事業」「BtoC事業」「バイオメディカル事業」の3事業において広く社会に提供しております。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行されたことに伴い、経済活動及び社会活動の正常化が一段と進み、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の緊迫化等に伴う資源価格や原材料価格の高騰、中国経済の先行き懸念及び欧米の金融引き締め政策等に起因する円安の継続等、景気動向の先行きについては依然不透明な状況にあります。

当社グループが属するヘルスケア業界におきましては、消費者の医療、健康及び美容に対するニーズは引き続き継続しております。

こうしたヘルスケアニーズに応えられるリーディングカンパニーとなるべく、「中期経営計画2026」のテーマ「新価値創造 1Kプロジェクト」を掲げております。この実現のため、研究開発投資、新製品の開発及び販売チャネルの開拓、組織体制の強化に注力いたしました。

また、こうした研究開発成果を社会実装につなげていく事業として、「卵殻膜素材」を様々な分野に応用するプロジェクトが、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が公募する「バイオものづくり革命推進事業」プロジェクトに採択されました。今後、繊維、農業及びナノファイバーを原料とした電子材料素材など幅広い産業利用に適した特性を持つ「卵殻膜素材」を開発・量産化するための投資を行ってまいります。

これらの取り組みにより、当社グループの研究開発費は482百万円（前年同期比16.6%増）となりました。新製品への広告宣伝を強化すると同時に、広告宣伝費全体の最適化を進めており、当第2四半期連結累計期間における広告宣伝費は16,990百万円（前年同期比25.6%減）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は31,652百万円（前年同期比9.9%減）、営業利益は1,535百万円（前年同期は883百万円の損失）、経常利益は1,542百万円（前期同期は912百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は768百万円（前年同期は914百万円の損失）となりました。

前第2四半期連結会計期間から当第2四半期連結会計期間までの各四半期別の業績推移は以下のとおりです。

	前期			当期	
	前第2四半期 連結会計期間	前第3四半期 連結会計期間	前第4四半期 連結会計期間	当第1四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間
売上高（百万円）	18,113	17,390	16,039	16,142	15,510
営業損益（百万円）	1,310	2,518	1,976	601	933
経常損益（百万円）	1,268	2,494	1,958	605	937

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

＜バイオメディカル事業＞

①創薬事業

創薬事業では、「自己免疫疾患」及び「がん」や「線維症」等の難治性疾患を対象とした研究開発を行っております。

創薬事業の基盤となる「ALAgene technology（アラジンテクノロジー）」は、これまで治療できなかった病気に対する抗体及び既存医薬品よりも優れた薬効を持つ抗体を作製する当社独自のプラットフォーム技術です。

本技術を活用・高度化することで、当社は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の令和3年度「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（国際競争力のある次世代抗体医薬品製造技術開発）」における主要メンバーとして参画しております。本事業において当社は、あらゆる疾患を標的とした次世代抗体医薬品候補となり得るリード抗体の取得に成功し、低分子抗体や二重特異性抗体等の次世代抗体医薬品の開発プロセスに進んでおります。

「自己免疫疾患」においては、当社内の「国際PAD^{※1}研究センター」において、一連のPAD関連ターゲットに対する創薬研究を推進しております。

抗PAD4抗体については、前期に米国特許庁から特許査定（US11447569B2）及び欧州特許庁からの特許査定（EP3266872）を受領し、日本（特許第6369922号並びに第6675739号）のみならず、米国及び欧州においても、「PAD4」を標的とする創薬プロジェクトの知的財産権が強化されております。

「がん」や「線維症」等の各種難治性疾患においては、標的分子に対する抗体を取得・精製し、薬効薬理試験等の創薬研究を推進しております。

この他、専門チームによるAI創薬にも積極的に取り組んでおります。抗体の構造をAIで設計することにより、従来の方法よりも格段に速く、高性能な抗体医薬品が開発できることを目指しております。

②研究支援事業

研究支援事業では、タンパク質を網羅的に解析するプロテオーム解析を受託サービスとして行っております。第2四半期連結累計期間においては、Thermo Fisher Scientific社の最新機種を導入し、これまでより高精度・短納期を実現するサービスを開始いたしました。

また、微量なタンパク質の変化が解析可能な「Olink Target」サービス及び「Olink Flex」サービスも、国内の研究機関、製薬企業等からの受注が堅調で、バイオメディカル事業における収益獲得に貢献しております。

以上の結果、バイオメディカル事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、117百万円（前年同期比15.2%減）、セグメント損失は224百万円（前期同期は145百万円のセグメント損失）となりました。

<BtoB事業>

BtoB事業では、機能性素材、健康食品及び医薬品等の研究開発及び製造を行い、食品・医薬品メーカー、流通事業者等に販売をしております。当事業が属する機能性表示食品及び健康食品等ヘルスクエア市場は、健康維持、増進への高い意識を背景に、市場規模が拡大しております。

機能性素材の売上高は、946百万円（前年同期比16.0%増）となりました。当社の主力商品である「ファーマギヤバ」の販売が国内外で好調に推移し、特に国内市場では、機能性表示食品制度における「GABA（ギヤバ）」の届出件数は2024年2月末時点で1,086件（前年同期は824件）となり、引続き第1位の採用実績を維持しております。大手飲料メーカーの睡眠ケア製品に採用されるなど、「GABA」の市場拡大が継続しております。

機能性製品の売上高は、372百万円（前年同期比51.8%減）となりました。自社ブランド製品（NB^{※2}）及び海外における最終製品のコンビニ等新たな販売チャネルの開拓を強化しております。

明治薬品㈱が手がける医薬品製造受託の「CMO^{※3}事業」の売上高は、2,220百万円（前年同期比11.2%増）となりました。後発医薬品メーカーの品質問題や製造上の不備による影響で代替需要が高まる中、受注の安定と利益率向上を達成しております。ただし、2024年1月の「令和6年能登半島地震」により、従業員の人的被害及び倒壊等の甚大な物的被害はございませんでしたが、生産設備の操業停止及び漏水等の被害により、製品の出荷に影響が発生いたしました。

また、同社の機能性食品・医薬品をドラッグストアチャネル等で販売を行う「CHC^{※4}事業」の売上高は632百万円（前年同期比30.5%増）となりました。ドラッグストア向けに新たな明治薬品ブランド製品の販売を強化しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のBtoB事業の売上高は4,171百万円（前年同期比2.5%増）、セグメント利益は743百万円（前年同期比6.1%増）となりました。

<BtoC事業>

BtoC事業では、「発明企業の通販事業」として当社独自の機能性素材を配合したサプリメント及び医薬部外品（「タマゴ基地」ブランド）並びに化粧品（「フューチャーラボ」ブランド等）、明治薬品㈱が製造する機能性表示食品等の商品を、通信販売方式で消費者へ直接販売を行っております。

顧客獲得効率指標のCPO^{※5}及び収益性指標のLTV^{※6}を重視する広告宣伝費の適正化の取り組みを強化する一方、新製品への広告宣伝投資の強化を図ってまいりました。

収益面での強化と並び、関連法令の遵守徹底、広告表現の改善、コールセンターでの対応品質向上の強化も最重要施策として継続してまいりました。

以上の取り組みの結果、2024年1月末時点の当社グループ全体の定期顧客件数は、900,914件（前年同期1,050,880件、前年同期比14.3%減）となりました。

「ニューモ育毛剤」をはじめとする「医薬品・医薬部外品」の売上高は18,918百万円（前年同期比15.6%増）になりました。「ニューモ育毛剤」の累計出荷件数は、2024年1月17日時点で2,500万本を突破し、引続き堅調な受注が継続しております。また、薬用ホワイトニングジェル「DRcula（キュラ）」は、受注の好調が継続し、定期顧客件数の増加につながりました。

このほか、「ニューモ」ブランドとして、医薬品「ニューZ」や卵殻膜人工毛配合の「ヘアパウダー」等の

新製品へのプロモーションを開始いたしました。しかし、「ニューZ」は、当初受注が好調であったものの、原料調達難による生産の遅れが生じたことにより、広告宣伝のタイミングが後ろ倒しとなり、当第2四半期連結累計期間での収益貢献が限定的となりました。

その他製品群につきましては、収益性指標を重視し、広告宣伝費の抑制を行った結果、「サプリメント」の売上高は4,178百万円（前年同期比44.4%減）、「化粧品」の売上高は3,972百万円（前年同期比40.2%減）となりました。

以上の結果、BtoC事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、27,353百万円（前年同期比11.5%減）、広告宣伝費は、16,869百万円（前年同期比25.9%減）、セグメント利益は1,732百万円（前年同期は857百万円のセグメント損失）となりました。

- ※1 PAD (Peptidylarginine deiminase) : 標的タンパクのアルギニンをシトルリン化する酵素。生体内に5種類のPADが存在し、各種疾患との関連が報告されている。
- ※2 NB (National Brand) : 自社ブランド商品
- ※3 CMO (Contract Manufacturing Organization) : 医薬品製造受託機関
- ※4 CHC (Consumer Health Care) : ドラッグストアでの医薬品及び機能性食品等の販売
- ※5 CPO (Cost Per Order) : 顧客1件を獲得するために要した広告宣伝費
- ※6 LTV (Life Time Value) : 顧客生涯価値

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ787百万円増加し、37,020百万円（前期比2.2%増）となりました。これは主に、現金及び預金の増加694百万円、投資有価証券の増加212百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,215百万円増加し、27,817百万円（前期比4.6%増）となりました。これは主に、広告宣伝費の増加等による未払金の増加792百万円、未払法人税等の増加821百万円、長期借入金の減少196百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ428百万円減少し、9,202百万円（前期比4.4%減）となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加768百万円、配当金の支払による減少346百万円、自己株式の取得及び処分による減少851百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績動向等を踏まえ、2023年9月11日に公表した2024年7月期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（2024年3月11日）公表いたしました「2024年7月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,306	17,001
受取手形及び売掛金	4,058	3,609
電子記録債権	526	372
商品及び製品	4,594	4,443
仕掛品	676	677
原材料及び貯蔵品	783	752
その他	588	827
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	27,530	27,683
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	2,449	2,421
機械装置及び運搬具 (純額)	541	511
工具、器具及び備品 (純額)	154	298
土地	1,190	1,190
リース資産 (純額)	21	16
建設仮勘定	47	116
有形固定資産合計	4,404	4,555
無形固定資産		
のれん	197	160
その他	41	54
無形固定資産合計	238	215
投資その他の資産		
投資有価証券	2,514	2,726
繰延税金資産	395	632
その他	1,149	1,206
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	4,058	4,566
固定資産合計	8,701	9,336
資産合計	36,232	37,020

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	937	1,022
短期借入金	17,400	17,400
1年内返済予定の長期借入金	955	961
未払金	3,728	4,520
未払法人税等	264	1,086
賞与引当金	72	80
その他	1,016	743
流動負債合計	24,374	25,814
固定負債		
長期借入金	1,741	1,545
退職給付に係る負債	320	310
その他	165	147
固定負債合計	2,227	2,002
負債合計	26,601	27,817
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,043	2,043
資本剰余金	1,814	1,814
利益剰余金	5,792	6,200
自己株式	△343	△1,194
株主資本合計	9,306	8,863
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	324	339
その他の包括利益累計額合計	324	339
純資産合計	9,630	9,202
負債純資産合計	36,232	37,020

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
売上高	35,143	31,652
売上原価	6,756	6,551
売上総利益	28,386	25,101
販売費及び一般管理費		
研究開発費	413	482
広告宣伝費	22,835	16,990
支払手数料	2,011	2,157
のれん償却額	36	63
その他	3,974	3,872
販売費及び一般管理費合計	29,270	23,565
営業利益又は営業損失 (△)	△883	1,535
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	12	13
為替差益	1	4
補助金収入	23	22
業務受託料	8	8
その他	21	17
営業外収益合計	68	67
営業外費用		
支払利息	23	27
投資事業組合運用損	10	2
持分法による投資損失	38	0
支払手数料	7	23
商品回収等関連費用	14	—
その他	2	5
営業外費用合計	96	59
経常利益又は経常損失 (△)	△912	1,542
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 (△)	△912	1,542
法人税等	3	774
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△915	768
非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	△1	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 (△)	△914	768

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△915	768
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	98	14
その他の包括利益合計	98	14
四半期包括利益	△816	783
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△815	783
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年10月20日 定時株主総会	普通株式	290	10.00	2022年7月31日	2022年10月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月20日 取締役会	普通株式	288	10.00	2023年1月31日	2023年4月4日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年10月25日 定時株主総会	普通株式	346	12.00	2023年7月31日	2023年10月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年2月19日 取締役会	普通株式	280	10.00	2024年1月31日	2024年4月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	BtoB 事業	BtoC 事業	バイオ メディカ ル 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,071	30,923	138	35,133	10	35,143	—	35,143
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	4,071	30,923	138	35,133	10	35,143	—	35,143
セグメント利益又は損 失(△)	700	△857	△145	△301	△1	△303	△580	△883

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ファンド運営事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△580百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△544百万円及びのれん償却額△36百万円が含まれております。なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	BtoB 事業	BtoC 事業	バイオ メディカ ル 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,171	27,353	117	31,642	9	31,652	—	31,652
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	4,171	27,353	117	31,642	9	31,652	—	31,652
セグメント利益又は損 失(△)	743	1,732	△224	2,251	△8	2,243	△708	1,535

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ファンド運営事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△708百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△645百万円及びのれん償却額△63百万円が含まれております。なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	BtoB 事業	BtoC 事業	バイオ メディカル 事業	計		
機能性素材	816	—	—	816	—	816
機能性製品	773	—	—	773	—	773
CMO	1,996	—	—	1,996	—	1,996
CHC	484	—	—	484	—	484
サプリメント	—	7,521	—	7,521	—	7,521
化粧品	—	6,637	—	6,637	—	6,637
医薬品・医薬部外品	—	16,372	—	16,372	—	16,372
その他	—	391	—	391	—	391
バイオメディカル	—	—	138	138	—	138
顧客との契約から生じる収益	4,071	30,923	138	35,133	—	35,133
その他の収益	—	—	—	—	10	10
外部顧客への売上高	4,071	30,923	138	35,133	10	35,143

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	BtoB 事業	BtoC 事業	バイオ メディカル 事業	計		
機能性素材	946	—	—	946	—	946
機能性製品	372	—	—	372	—	372
CMO	2,220	—	—	2,220	—	2,220
CHC	632	—	—	632	—	632
サプリメント	—	4,178	—	4,178	—	4,178
化粧品	—	3,972	—	3,972	—	3,972
医薬品・医薬部外品	—	18,918	—	18,918	—	18,918
その他	—	284	—	284	—	284
バイオメディカル	—	—	117	117	—	117
顧客との契約から生じる収益	4,171	27,353	117	31,642	—	31,642
その他の収益	—	—	—	—	9	9
外部顧客への売上高	4,171	27,353	117	31,642	9	31,652

(注) 1. 前第3四半期連結会計期間より、収益認識の分解情報をより適切に反映させるため、当社グループの商品名・製品名で表記していた収益の名称を「機能性素材」、「機能性製品」、「サプリメント」、「化粧品」、「医薬品・医薬部外品」に区分し、組替えております。この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間についても変更後の名称で表示しております。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ファンド運営事業に係る取引によるものであります。

(重要な後発事象)

(重要な契約の締結)

当社は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、NEDO)が公募する「バイオものづくり革命推進事業」プロジェクトに採択され、2024年2月7日にNEDOと正式に契約締結いたしました。

1. 契約の目的及び経緯

卵殻膜のアップサイクルによる、「ハイブリッド繊維」、「新規蓄電素子材料」及び「バイオスティミュラント」の3つの領域における事業化が、委託及び助成事業として採択されました。

本事業のうち、「改変酵素を用いた卵殻膜の総合的活用プラットフォームの構築」業務について、NEDOとの間で業務委託契約を締結いたしました。

2. 契約の相手の名称

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

3. 契約締結の時期

2024年2月7日

4. 契約の主な内容

NEDOが認めた実施計画書に従い、「改変酵素を用いた卵殻膜の総合的活用プラットフォームの構築」業務に係る業務を当社が受託いたします。

5. 契約の締結が営業活動等へ及ぼす重要な影響

本事業の社会実装を見据え、NEDOの補助を受けながら、今後5年間で総額5,000百万円超の研究開発投資及び設備投資を行ってまいります。

「ハイブリッド繊維」、「新規蓄電素子材料」及び「バイオスティミュラント」の3分野の研究開発と並行して、早期の市場進出のため大手の最終製品メーカーと協議を進めてまいります。